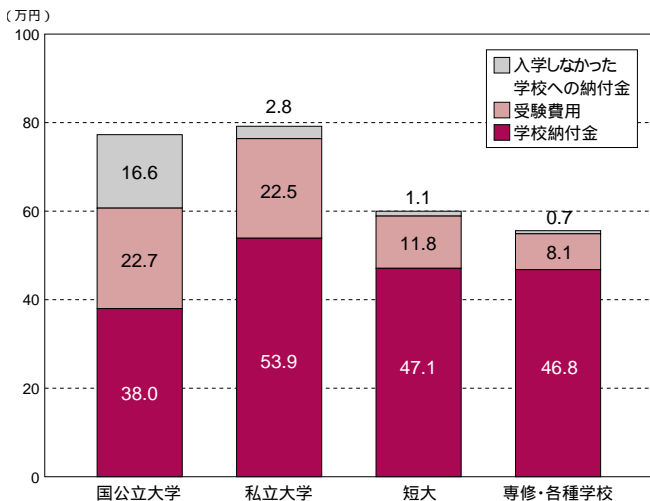


# 進学費用

進学にはかなりの費用が必要となる。奨学金やローンなどを利用する人も多い。経済的に厳しい場合も、すぐ諦めずに対策を練ろう。

## #01 大・短・専 入学時にかかる費用

### 専門学校で60万円、大学で80万円



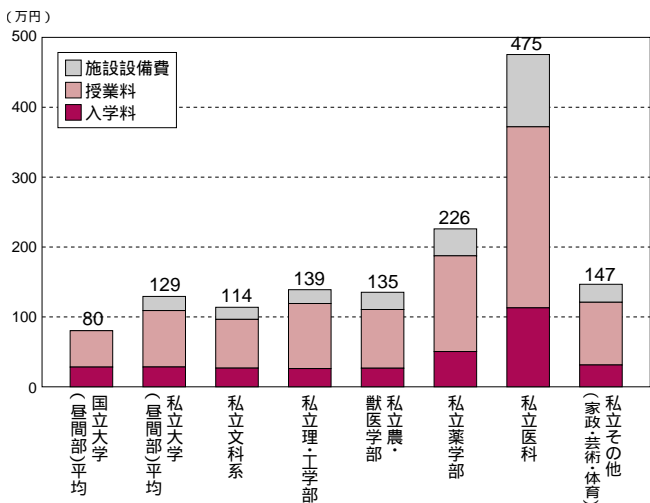
入学までにかかる費用には、入学校への納付金以外に、受験料や受験のための交通・宿泊費などの受験費用、入学しなかった併願校への納付金などもある。合わせると大学で78万～79万円、短大で60万円、専門学校で56万円が平均額。遠方の学校を受験したり、たくさん併願すると費用もアップする。受験校決めの際にも費用面を考える必要がある。

国民生活金融公庫「家計における教育費負担の実態調査（平成16年度）」

学校納付金 = 入学金、寄付金、学校債など入学時に学校に支払った費用  
受験費用 = 受験料、交通費、宿泊費など

## #02 大学の初年度納付金

### 理系学部は実験や施設費で学費は高め



入学した年に大学に納める平均的な金額は、国立で80万円、私立で129万円だ。学部別に見ると、文科系学部より理科系学部の方が施設設備費等がかかるため高額となる傾向にある。また、国立大法人化に伴い、全国一律だった国立大の授業料は標準額の一定範囲内で自由化されている。今春の標準額は53万5800円だが、志望校について個別に調べてみる必要がある。

文部科学省調べ

国立大学は2004年度、私立大学は2003年度の計数

## #03 専門学校の初年度納付金

## 理系・医療分野は高額など学科で差

(単位:万円)

学科区分の例	合計	うち入学金	うち授業料
情報処理	120.2	19.8	53.3
電気・電子、機械、その他	121.2	22.5	53.2
看護	77.1	17.1	44.5
はり・きゅう、あんまマッサージ指圧	207.3	66.9	120.2
栄養、調理	128.0	18.6	59.5
理容、美容	133.4	13.3	46.2
介護福祉、その他	107.3	14.4	66.9
簿記、ビジネス	107.4	15.3	63.7
服飾・家政関係	96.7	18.2	54.6
語学	114.9	13.2	82.9
美術、デザイン	122.7	19.9	69.0

昼間部

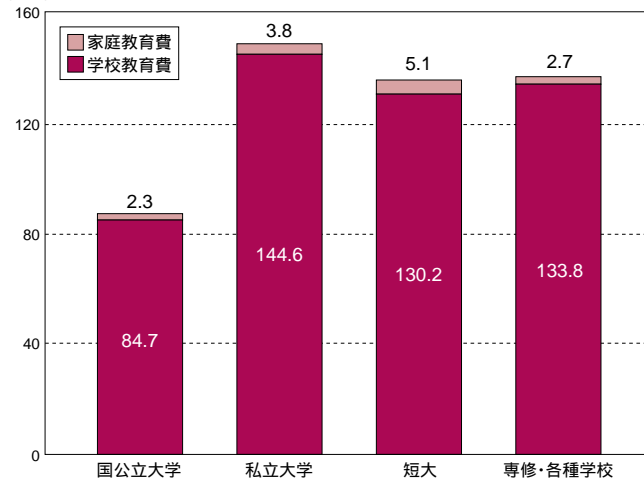
専門学校の初年度納付金は、平均80万円以下の学科系統から200万円以上かかる系統まで幅広い。必要な実習費や設備費が学科系統によって異なることが影響している。また、同じ系統でも学校によって大きな違いがあるため、志望校について個別に調べる必要がある。

東京都専修学校各種学校協会「平成16年度学生納付金調査結果」より抜粋

## #04 大・短・専 1年間の在学費用

## 教育費だけで年間150万円近く

(万円)



授業料や通学費など在学习することによって1年間にかかる平均額は、国立大学で90万円弱、私立大学で140万円超、短大や専修・各種学校で140万円近い。これに別途生活費がかかることを考えると、在学中の家計への負担は相当なものといえるだろう。

国民生活金融公庫「家計における教育費負担の実態調査(平成16年度)16年度見込み額  
学校教育費 = 授業料、通学費、教科書代など  
家庭教育費 = 塾の月謝、おけいこなどの費用など

## #05 大学生の年間生活費の内訳

### 私立で自宅外通学なら年間261万円

(単位:円)

区分	自宅通学		学寮を除く自宅外通学		
	国立	私立	国立	私立	
収入	家庭から	746,400	1,308,600	1,474,400	2,167,300
	奨学金	137,400	193,500	222,000	264,300
	アルバイト他	397,100	527,500	360,300	429,800
	合計	1,280,900	2,029,600	2,056,700	2,861,400
支出	授業料など学費	526,200	1,159,900	535,900	1,237,600
	課外活動費	44,600	44,800	47,700	51,500
	通学費	114,600	115,300	18,800	31,100
	学費関連計	685,400	1,320,000	602,400	1,320,200
	食費	117,200	124,600	325,300	317,100
	住居・光熱費	1,600	1,700	567,300	578,500
	その他日常費	324,400	363,900	372,300	398,000
	生活費計	443,200	490,200	1,264,900	1,293,600
	合計	1,128,600	1,810,200	1,867,300	2,613,800

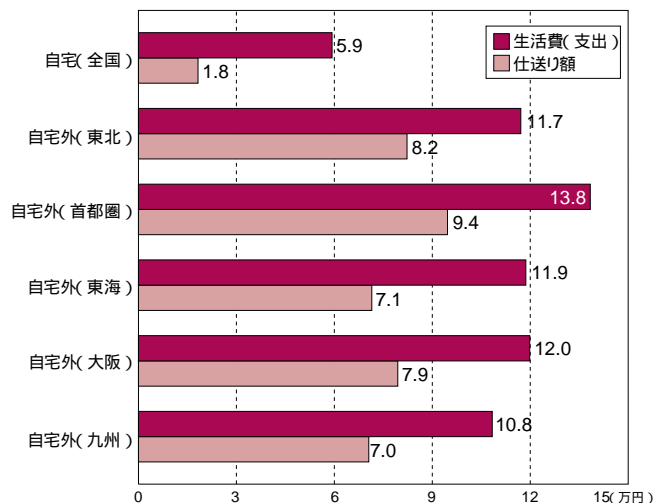
大学・昼間部

学費のほか食費や住居費等も含めた年間生活費(支出)は、最も金額の低い国立大学・自宅通学で113万円。最も高額となる私立大学・自宅外通学では261万円。単純計算すると、卒業までの4年間で1000万円を越すことになる。

文部科学省「平成14年度学生生活調査結果」

## #06 地域別 大学生の1カ月の生活費

### 首都圏の下宿者は仕送り約9万円超



自宅外学生にかかる生活費は地域による差が大きい。これは生活費の約4割を占める住居費の影響。九州なら月間生活費11万円ですむところ、首都圏では14万円かかる。それに応じて仕送り額にも違いがみられ、首都圏では月9万円超が平均的だ。また、不足分はアルバイトや奨学金などで補う人が多いようだ。

全国大学生生活協同組合連合会「Campus Life Data2003～2004」

生活費 = 食費、住居費、交通費、書籍費、電話代など

## #07 おもな奨学金制度

## 成績や収入によって無利息の制度も

日本学生支援機構 (旧・日本育英会)	第一種奨学金 (無利息)	賞与月額	大学	国公立・自宅:4万4000円、 国公立・自宅外:5万円 私立・自宅:5万3000円、 私立・自宅外:6万3000円	人柄、学力、 家計などを対 象に選考があ る。返還は卒 業後に行う。
			短大・ 専門学校	国公立・自宅:4万4000円、 国公立・自宅外:5万円 私立・自宅:5万2000円、 私立・自宅外:5万9000円	
	第二種奨学金 (きぼう21プラン)		大学・ 短大・ 専門学校	自宅・自宅外にかかわらず、 3万円、5万円、8万円、10 万円から選択	
各学校の奨学金	多くの学校では独自の奨学金、待遇生制度を用意している。 月1万円レベルのものから、一時金として10万円～50万円な ど、タイプはさまざま。			返済の必要の ないものも多い	
新聞奨学会	朝日、毎日、読売、産経、日経などの大手新聞社には奨学 会があり、新聞販売店に住み込んで新聞配達などの仕事を しながら学校に通う制度がある。個室や食事が確保される。			在学中支給さ れる奨学金や 給与から返済。	

奨学金には主に、返済不要のもの、無利息で借りられるもの、利息つきで借りるもの(ただし金利は低い)があり、優遇されているものほど成績や収入などの条件が厳しい。利用者が最も多いのが日本学生支援機構の奨学金。毎月一定額を学生が受け取るタイプのもので、無利息の第一種と利息がつく第二種がある。高3春の申し込みも可能なので、利用したい人は早めに高校の先生に相談しておきたい。

## #08 教育ローンの例

## 国による低金利ローンもある

区分	名称と窓口	内容
国 (国の教育ローン)	「教育一般貸付」 国民生活金融公庫	世帯の年間収入が一定額以内の人対象。学生一人につき200万円以内。返済期間は10年以内。
	「郵貯貸付」 郵便局	郵便局で教育積み立て郵便貯金をしている人対象。学生一人につき200万円以内。返済期間は10年以内。
	「年金教育貸付」 都道府県の年金福祉協会 など	厚生年金または国民年金の加入期間が10年以上の被保険者が対象。厚生年金の場合は学生一人につき100万円以内、国民年金の場合は50万円。返済は10年以内。
自治体	「自治体提携融資制度」 全国の労働金庫	対象地域の一般勤労者が対象。最高500万円まで。返済期間は最長10年間。
財形	「財形教育融資制度」 雇用・能力開発機構の 各都道府県センター	財形貯蓄をしている勤労者を対象に、教育資金を融資する。財形残高の5倍以内(10万円以上450万円以内)返済は10年以内。
その他	金融機関ほか	各金融機関やJA、保険会社などがさまざまな教育ローンを設けている。奨学融資制度を設ける学校も増えている。問い合わせは各機関へ。

奨学金と違い、こちらは主に保護者が借りるもので、入学時の学校納入金など一時的な出費への対応に利用されている。ローンによって金利や融資額等はさまざまだが、「国の教育ローン」なら条件が合えばかなり低金利で利用できる(年1.7%：平成17年3月11日現在)。大学や専門学校が金融機関と提携して、収入や成績の条件なしで学生本人に融資する奨学融資制度も増えている。